

2014 年度九州沖縄地区合同シンポジウム

「東シナ海及びその周辺海域のリモートセンシングによる気象・海洋観測」

共 催：水産海洋学会・海洋気象学会・日本海洋学会西南支部

日 時：2014 年 12 月 5 日（金） 10:40~16:40

場 所：琉球大学理系複合棟 1 階 102 講義室（沖縄県中頭郡西原町千原 1）

コンビーナー：久木幸治・小賀百樹（琉大理）、渡慶次力（宮崎水試）

開会の挨拶：久木幸治（琉大理） 10：40～10：45

第 1 部【基調講演】

リモートセンシングによる東シナ海の流速観測 ○市川 香(九大応力研) 10：45～11：20

第 2 部【一般講演】

リモートセンシングによるクロマグロ産卵場の環境モニタリング

○亀田卓彦（水研セ西海水研亜熱帯セ）、増島雅親（水研セ中央水研）、
鈴木伸明（水研セ国際水研） 11：20～11：40

（休 憩） 11：40～13：00

漁船が計測した日向灘漁海況の変動特性

○渡慶次力，甲斐史文（宮崎水試），清水 学，市川忠史（水研セ中央水研）
広瀬直毅，千手智晴（九大応力研） 13：00～13：20

黒潮フロント渦に伴う東シナ海黒潮域の植物プランクトン群集構造変化

○吉江直樹，坂本航平，中川美和，佐藤業大，堤英輔（愛媛大沿岸セ） 13：20～13：40

曳航式バルーンを用いた沿岸海洋前線周辺の熱赤外観測

○宮尾泰幸（九大院総理工），磯辺篤彦（九大応力研） 13：40～14：00

東アジア縁辺海物理・生態系結合モデルの開発

○高山勝巳，広瀬直毅（九大応力研），鬼塚 剛（水研セ瀬戸内水研） 14：00～14：20

（休 憩） 14：20～14：30

長江希釈水が東シナ海の海面水温変動に与える影響

○加古真一郎，中川智文（鹿大院理工），高山勝巳，広瀬直毅，
磯辺篤彦（九大応力研） 14：30～14：50

東シナ海における ADCP 定点観測と人工衛星海面高度偏差から見積もられた潮流

○滝川哲太郎（水大校），三輪洋介（京都海洋セ），森本昭彦（名大水循環セ），
吉川 裕（京大院理） 14：50～15：10

東シナ海上の季節風が励起する九州東方沖の黒潮小蛇行

○中村啓彦，平中 陸（鹿大水産），安倍大介，齋藤 勉（水研セ中央水研） 15：10～15：30

沿岸海洋環境観測のための高分解能海洋レーダの開発

○後藤祥太（琉大院理工），藤井智史（琉大工），御手洗哲司（沖縄科技大） 15：30～15：50

潮汐モデルを利用した海底地形データの補正

○山口博愛（九大院総理工），広瀬直毅（九大応力研） 15：50～16：10

第 3 部【総合討論】 16：10～16：40

開催趣旨：東シナ海は大部分が水深 200m より浅い海域で，大陸棚の面積がそのかなりを占めている．さらに，大陸から豊富な栄養塩が東シナ海には供給されている．そのため豊かな水産資源に恵まれている．またこの海域は，多くの魚の産卵・生育場となっている．東シナ海大陸棚斜面域に沿って黒潮が北上し，太平洋岸へと流れている．こうした魚の移動には，この海域における海流が重要な役割を担っている．このように東シナ海は水産・海洋学において重要な海域である．そのためこの海域では，多くの水産・海洋学のための観測・モニタリングが様々な手法によって行われている．これらの手法のうち，重要なものの一つとしてリモートセンシングがある．そこで本シンポジウムでは，東シナ海及びその周辺海域のリモートセンシングによる気象・海洋観測によって得られた知見・課題について議論する．或いは現場観測・数値計算などの立場から，リモートセンシングに何を求めるかなどについても議論したい．